

最近の消費動向（個別ヒアリング）

3月の大型小売店の売上高は、気温の上昇に伴い春物商材が堅調に推移したことや、一部店舗の増床・リニューアル効果などもあり、3か月ぶりに前年同月を上回った。

大阪産業経済リサーチセンターでは、消費動向を把握するため、大型小売店3社と飲食店1社を対象にヒアリング調査を行った。

大型小売店では、ホワイトデー商戦や農産物などで苦戦したが、ジャケット、パンツ、婦人のスプリングコートなどカジュアルを中心に動きが良く、海外高級ブランドのバッグのほか、時計・宝飾などの高額品も好調だった。飲食店では、好天やテレビ放映などが奏功し、前年の売上げを上回る企業もあった。

百貨店A社

3月の売上げ状況を見ると、カジュアル系婦人服、ブルゾンなど紳士服、高額な宝飾品などの動きは良かったが、主力の季節商材の動きが鈍く、売上高は前年を下回った。

紳士服：スーツやブルゾンなどの動きは良かったが、バッグなどのトラベル関連や、靴、革小物といった雑貨で苦戦し、全体では微減となった。

婦人服：ドレス、スカートなどの動きが鈍かったものの、スプリングコート、今年流行のパンツ、ジーンズなどが好調で、売上げは小幅の減少にとどまった。

子供服：土日における来店客数の減少もあり、雑貨・玩具以外の品目が伸び悩み、全体の売上げは減少した。

食料品：来店客数の減少もあり、ひな祭り・ホワイトデー商戦ともに前年を下回った。生鮮食品、和菓子、洋菓子・パンなど多くの品目で不振となり、全体の売上げも減少した。

化粧品：ボディーケアでは大量購入がみられた。

バッグ：例年、春物バッグの買い換え需要がみられるが、平場（自主企画の売り場）・インショップ（ブランドごとに区切った販売形式）とも苦戦した。

宝飾品：パールの動きが好調で、時計も海外・国産ともに高額品が伸びている。

百貨店B社

3月は、気温が平年よりも高く推移したことに加

え、円安に伴う海外高級既製服ブランドの値上げを目前にした駆け込み需要、株価の上昇などもあり、府内店舗の売上げは前年並みや増加となった。

紳士服：春物を中心に、シャツ、ジャケットといったカジュアル系が好調で、大阪市内のある店舗では2桁増となった。ただし、スーツやシューズなどのビジネス関連商品は伸び悩んだ。

婦人服：海外の高級既製服ブランドの値上げを目前にした駆け込み需要が発生しており、宝飾、バッグ・財布などの革雑貨で前年を大きく上回った。前半は、春色のスプリングコートやヤングに人気のパンツの売れ行きが良く、後半もパンツや初夏らしい色合いのニットが好調だった。

子供服：洋品部門では、平日は孫へのプレゼントを買い求める祖父母の、土日は家族連れでの来店がみられ、全体の売上げは増加した。また、ゲームやアニメのキャラクターグッズが小学校の低学年で人気となっている。

食料品：平年より桜の開花が早く、花見用の弁当や惣菜が好調に推移したが、競争激化もあり全体の売上げは前年実績を下回った。なお、最近のバレンタインでは、女性の友人同士で贈り合う「友チョコ」が需要の主流になっていることから、ホワイトデー商戦はバレンタインからの波及が少なく苦戦した。

雑貨等：株価上昇の影響もあり、腕時計や特選食器など海外高級ブランドを中心に動きが活発になっている。婦人靴では、今年の流行色に合わせたパンプスのほか、好天の影響からウォーキングシューズが好調であった。

スーパーC社

3月の販売額は前年同月比で微減となった。平年に比べて気温が高く、衣料品では春物商品が活発に動いた。住居関連でも、空気清浄機などが好調で、衣料品とともに売上げは増加した。一方、食料品では、飲料など好調要因もみられたが、水産の一部や昨年の相場高騰の反動を受けた農産物が苦戦したこともあり、前年を下回った。

来店客数は、衣料品でのみ増加したが、買い上げ点数はいずれも前年並み、顧客単価は衣料品と住居関連で微増となった。

衣料品：紳士のカジュアルパンツ、シャツ類、服飾・ネクタイ、カットソーなど、春物商品が堅調に推移

した。また、花粉の飛散量予測に基づき、花粉症対策関連の商材を早めに打ち出したことから、アウトター、帽子、サングラスなどが大幅に伸びた。一方、卒業・入学式関連の婦人フォーマルはやや苦戦した。

食料品：あさり、ホタルイカといった水産の旬物、ひな祭り・花見向け惣菜、カット野菜・カットサラダ、飲料・アイス、単価が上昇傾向にある米などが好調だったが、魚卵、塩鮭等のほか、昨年の相場高騰の反動から単価安となった農産物が苦戦した。個別商品では、ローストビーフ等、唐揚げ、チルド半製品、造り素材、ドレッシングなどが増加したが、焼鳥・照り焼き、特殊豚、キャベツ、塩鮭・加工品などが減少した。

住居関連：花粉やPM_{2.5}（直径2.5μm以下の微小粒子状物質）の飛散に伴い、空気清浄機やマスクが大幅に伸びたほか、鼻炎薬・目薬、保湿ティッシュなども好調だった。また、気温上昇に伴い、制汗剤や防虫剤の動きも良かった。その他の商品では、4000以上冷蔵庫、ダウンケット、ステンレスボトルなどが増加したが、防災用品、BOX家具、カードゲーム、レコーダー、カイロなどが減少した。

飲食店D社

売上高：郊外型和食レストランであるD社の3月の売上高は、天候に恵まれたことや日曜日が1日多かったこと、下旬にテレビ番組でメニューが取り上げられたこともあり、前年実績を上回った。また、繁閑に関係なく作業のスピードを変えないことで、機会損失の回避に努めている。繁忙期や週末営業が活

況を呈したことで、平成24年の郊外和食部門は増収増益となった。

来店客数：3月は、テレビCMや折込みチラシといった定例の販促活動以上に、先述のテレビ放映の効果が大きく現れ、前年同月比で数%の増加となった。また、週末の10%割引特典サービスが受けられるモバイル会員の登録者数も各店舗で増加しており、高い固定客率につながっている。なお、店舗には個室が数部屋備わっており、卒業・入学関連や送別会などの宴会需要が好調で、予約は前年に比べて1割ほど増加した。

客単価：前年同月比で横ばいとなった。平日のランチタイムは定食が多いことから、単価はやや低いが、ディナータイムは季節を問わず人気の高いしゃぶしゃぶの食べ放題が中心となり、単価は安定する。なお、一日の平均客単価は1,200円程度である。円安基調による食材調達コストの上昇は今のところないが、今後の課題になることは避けられないとみている。

独自の取組：和食はメニューに季節感を取り入れることが重要といわれる。D社は繰り返し来店してもらえる店をめざし、値頃感を維持しつつ旬の食材を用いたメニューを2か月の期間限定で4品ずつ投入して、他社と競合しない事業ドメインの確立を図っている。一方で、景気回復の外出産業への波及は、賃金上昇や雇用確保の改善など、個人消費が上向くまで望めないとみている。

大阪府の消費に関する経済指標

(単位：百万円、台、%)

		24年		25年			
		10月	11月	12月	1月	2月	3月
大型小売店計	販売額(全店ベース)	135,227	149,715	192,893	146,889	124,855	144,986
	(前年同月比、全店ベース)	▲2.3	3.9	2.4	▲0.5	▲1.2	6.4
	(前年同月比、既存店ベース)	▲2.4	3.8	2.6	▲0.4	▲0.6	5.6
うち百貨店	販売額	66,484	78,822	103,625	76,533	62,409	75,131
	(前年同月比、全店ベース)	▲2.0	6.8	2.3	3.6	3.4	9.6
	(前年同月比、既存店ベース)	▲1.0	7.8	3.9	5.1	6.2	9.6
うちスーパー	販売額	68,743	70,894	89,268	70,355	62,446	69,855
	(前年同月比、全店ベース)	▲2.6	0.8	2.4	▲4.7	▲5.3	3.2
	(前年同月比、既存店ベース)	▲3.7	▲0.4	1.1	▲5.9	▲6.8	1.5
コンビニエンスストア販売(近畿)	販売額	116,810	112,174	119,921	108,564	101,263	116,947
	(前年同月比、全店ベース)	2.5	2.5	2.9	4.2	▲1.7	4.8
	(前年同月比、既存店ベース)	▲1.6	▲1.9	▲1.6	▲0.6	▲5.0	0.2
乗用車新車販売	台数	15,586	16,908	15,308	16,859	21,391	26,813
	(前年同月比)	▲5.8	▲0.3	▲0.9	▲7.2	▲8.9	▲13.3
家電販売(近畿)	(前年同月比)	▲15.4	▲8.4	▲5.0	▲12.3	▲5.3	▲3.2

資料：【大型小売店販売額】近畿経済産業局「管内大型小売店販売状況」。前年同月比は店舗調整済の値。

【コンビニエンスストア販売額】近畿経済産業局「管内大型小売店販売状況」(参考資料)。

【乗用車新車販売台数】(社)日本自動車販売協会連合会、(社)全国軽自動車協会連合会。

【家電販売額】近畿経済産業局「近畿経済の動向」。